

## 第43回高松矯正管区教誨師研修大会（JKA補助事業）

平成29年7月3日(月)～4日(火)

### 研究発表

テーマ「神社神道から見た教誨のありかた」

テーマ「心に残る教誨をめざして」

テーマ「教誨師の活動を通して思うこと」

### 基調講演

演題 「対象者の理解と関わり」－お互いの心が開けると話がはずむ－

講師 京都女子大学非常勤講師 臨床心理士 竹下三隆氏

### 研究会

#### 第1分科会

協議題 「グループ教誨で気を付けていること」

#### 第2分科会

協議題 「個人教誨で気を付けていること」

#### 第3分科会

協議題 「少年非行と向き合って」

### 研修の成果

大会テーマである「未来へ（生きる力を育む教誨をめざして）」に基づき、高松矯正管区（四国4県）教誨師連盟に所属する教誨師が一堂に会し、刑事施設（刑務所等）や少年施設（少年院等）における宗教教誨に関する研究協議を図り、更に、相互の親睦を図ることを目的として研修を実施した。

初日は、計78名（内訳：教誨師37名、他関係機関職員等41名）、2日目は、計61名（内訳：教誨師32名、他関係機関職員等29名）が参加し、講演や分科会方式による活発な意見交換などにより、教誨師が相互に情報を交換し、協力することで被収容者の再犯防止及び円滑な社会復帰を目指すことを確認した。

#### (1) 研究発表

比較的経験年数の少ない教誨師が、これまで行ってきた教誨の実施方法、教誨実施上の悩みや不安を発表することで、経験の豊富な教誨師は、新たな教誨の取組方法を発見するとともに、経験の比較的少ない教誨師は、今後の教誨実施に向け、具体的なアドバイスを受けることができた。

参加者は、発表者の不安を解消すべく、様々な方向からの切り口でアドバ



イスを行い、また、新たな取組を実施するための準備の方法や、被收容者の反応などを発表者だけでなく、参加した教誨師間で共有することができた。

## (2) 基調講演

講師に、京都女子大学非常勤講師竹下三隆氏を迎え、「対象者の理解と関わり」（お互いの心が開けると話がはずむ）と題し、これまでの被收容者に対する豊富な面接や指導の経験から、①呼吸の間、②面接の雰囲気、③言い方の工夫、④自立の考え方等について具体的な事例を踏まえた内容の講演を実施した。さらに、講演内容を実際に経験し、今後、実践に活用するため、参加者数名のグループを作り、演習を行った。

## (3) 各研究会

教誨の主な形態である、「グループ」、「個人」、「少年と成人」に関して、教誨師間だけにとどまらず、「教誨師と施設職員」、「少年施設と成人施設」の情報の共有を図ることを目的として、教誨師からの施設に対する要望、各施設間における教誨に関する情報の共有、少年に対する教誨に関して、成人を担当する教誨師が少年に対する教誨を実施する上での不安解消のための議論など、教誨師、施設職員、又は、施設間で情報を共有し、それぞれの被收容者の目的に沿った教誨活動を、それぞれの立場や「成人少・少年」の垣根を越えた協力体制を構築し、今後の「生きる力を育む教誨」につながる意見交換が行われた。

会場全景



基調講演



研究会



発表会（研究会討議内容）

